

若州今富の庄

今富地区長期計画

21世紀の 今富地区の将来ビジョン



福井県無形民俗文化財 和久里壬生狂言「炮烙割り」

2004年3月

今富いきいきまちづくり委員会

表紙の説明

和久里壬生狂言「炮烙割り」

制定 昭和61年3月28日県指定無形民俗文化財
所在地 小浜市和久里
管理者 和久里壬生狂言保存会

壬生狂言

円覚上人が、西安2年(西暦 1300年)大衆に念仏を唱えることを勧め、仏の教えを身ぶり手ぶりで説き伝えたのが始まりと言われ、勧善懲悪、因果応報を教える宗教劇となっている。以来700年、花の都 京都で「能」等の影響を受けながら、庶民に支持され受け継がれて、現在の「壬生大念仏狂言」として、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

和久里壬生狂言

この京都で興った狂言が、いつ若狭小浜の地に伝えられたかは定かでないが、江戸時代の中頃ではないかと推定されている。記録では、江戸時代後期の文化13年(西暦1816年)以降、小浜の永三小路(八幡宮前)にあった「市の塔」の7年供養に、壬生狂言を上演していたことが解り、この「市の塔」が和久里に移ってからは、和久里地区民が壬生狂言を奉納している。

和久里壬生狂言は、子の年、午の年に行われる「市の塔」七年祭りの供養として奉納されるもので、京都のものと同じく 着面無言、則ちパントマイムの狂言である。演目は、「餓鬼角力」「炮烙割り」「とろろすべり」「愛宕詣り」「寺大黒」「花盗人」「狐釣り」「座頭の川渡り」「腰折り」の九曲である。

「市の塔」の祭りには、昭和17年(西暦1942年)まで、6年毎に この狂言が奉納されていたが、戦後の荒廃や、昭和28年(西暦1953年)の大水害による記録、諸道具の流出などにより中断、昭和35年に一度復活奉納されたが、その後、社会の情勢の変化などにより再び中断されていた。しかし、昭和53年(西暦1978年)壮年グループ「甚六会」の復活に対する熱い思いが、区民の協力と、古老の厳しい指導を得るに至り、18年ぶりに見事復活奉納される運びとなった。

「炮烙割り」の筋書き

町に新しい市場を開く計画を立てた目代(役人)が、「一番に店を開いた者には免税する」と言う、奨励の立札を立てる。

夜の明け切らぬうちに羯鼓(太鼓)売りが立札を見て、一番乗りを喜び、夜明けを待つ間 ひと寝入り。

そこへ、二番目に現れた炮烙(皿)売りが、立札を見て自分が一番だと思い込み、喜びも束の間すでにそこには先手がいる。

何とかして 一番乗りを我が手にと 持ち物をすり換え 二人は大争いとなる。

そこへ現れた目代に 裁きを乞う。

目代は、一計を案じ二人に色々と芸をやらせて決めようとするが、どうしても決めてがない。最後に、自分の持ち物を近くの大木の幹に、打ち当てることを命じる。

いやはや、当惑したのは炮烙売り、言われる通りにやらねば疑いが晴れず、かといって、やれば事が露見するし、止む得ずそろりそろりとやっているうちに、とうとう目代と羯鼓売りに、後ろから突き飛ばされ、とうとう大切な炮烙を、木端微塵に打ち砕かれてしまう。

羯鼓売りは、身の証しを立てられた上、晴れて免税の許しを得て、万々才で立ち去る。それに引換え、炮烙売りはと見れば商売もできず、泣く泣く立ち去る。しかし、これも元はと言えば、身から出た錆と思ひ知るべきで、世を欺き、人を欺いた者の罰と見るべき……………。

「厄は落ち」羯鼓売りは、開運の利益を授かりめでたし めでたし。

目 次

☆ はじめに	前 3
1. 計画の指針	1
2. 現状分析	1～5
3. 長期ビジョン事業計画	6
(1) 長期ビジョンの主要の狙い	6
(2) 快適で住みよい社会基盤の形成をめざして	6
[イ] 生活基盤の充実	
● 広域交通網の整備	6～7
◆ 広域自動車道の整備	
◆ 舞鶴若狭自動車道の小浜IC、複合休憩所の建設	
◆ 広域鉄道の整備	
◆ 今富縦貫道の建設(162号線バイパス)	
◆ 若狭ヘリポートの活用	
● 道路交通網の整備	7～8
◆ 生活道路の整備	
◆ 道路の整備と交通停滞の緩和	
◆ 交通体系の確立	
● 上水道	8
◆ 上水道の塩害	
● 下水道	8
◆ 早期下水道の完備	
● 河川の整備	8～9
◆ 南川水系の改修	
◆ 多田川、森川水系の改修	
● 宅地・住宅	9
◆ 都市計画・土地区画整理	
◆ 市営住宅の改善	
● 情報通信網	9
◆ 情報の迅速化	
◆ 今富シンボルマークの制定	
[ロ] 快適な生活基盤の充実を図るために	
● 土地利用	9～10
◆ 小浜 IC周辺の土地利用	
◆ 土地地域の色分け合理的な整備	
● 公園・緑地	10
◆ 公園・緑地の適正な配置	
◆ 植樹事業の取り組み	
◆ 安心して水遊びの出来る自然川の復元	
[ハ] 安全性確保し環境の保全を図るために	
● 交通安全	10～11
◆ 交通規制の徹底と交通安全教育の実施	
◆ 交通安全施設の整備	
◆ 交通安全環境対策	
● 環境保全・環境衛生・リサイクル	11
◆ 環境保全と環境衛生(リサイクル比率の向上)	
● 防災	11
◆ コミュニティセンターの設置	
◆ 防災訓練の実施	
◆ 防災監視体制の強化	
◆ 生野尾線沿いの防火用水確保	
● 防犯	11～12
◆ 防犯体制の確立	

(3) 健康で生きがいに満ちた福祉社会の実現を目指して	12
[イ] 健康づくりの推進のために	12
● 保険・医療基盤の整備	12
◆ コミュニティバスの有効利用により、市街地の各種施設を利用	
● 福祉基盤の充実	12
◆ 新設のコミュニティセンターを利用し、地域福祉活動の活性化を図る	
[ロ] 社会福祉の推進のために	13
● 児童福祉、社会保険、公的扶助の充実	13
◆ 保育所の統合と複合化	
◆ 保育所の情操教育	
[ハ] 安心して暮らせるまちづくり	13
● 安心まちづくり	13
◆ 生きがいづくり	
◆ 地域内連帯感の強化	
◆ 冠婚葬祭の簡素化	
(4) 活力ある産業の育成と観光・リゾートの振興を目指して	14
[イ] 観光・交流活動の振興のために	14
● 観光・リゾート	14
◆ 体験型農業施設	
◆ 若狭西街道を利用した観光開発	
[ロ] 産業の振興のために	15
● 農業	15～16
◆ 体験農園	
◆ 観光農園	
◆ 貸し出し農園	
◆ 農業生産の基盤強化	
◆ 地産地消の推進	
◆ 獣害防止対策	
● 林業	16
◆ 林業生産基盤の整備	
● 商業	16
◆ 商業の振興	
● 工業・企業誘致	16
◆ 企業誘致	
(5) あすを担う人材育成をめざして	16
[イ] 学校教育の充実をめざして	16
● 幼児教育	16
◆ 幼児教育の支援	
● 学校教育	17
◆ 学校教育の支援	
[ロ] 伝統・文化の継承と創造のために	17
● 社会教育・スポーツ・レクリエーション	17～18
◆ 活動拠点の充実	
◆ 生涯学習推進体制の整備	
● 文化財・史跡	18
◆ 地区内の文化財・史跡の整備、活用	
● 男女共同参画社会の推進	19
◆ 男女共同参画社会の推進	
(6) 計画推進のために	19
[イ] 市民参加のために	19
◆ 今富いきいきまちづくり委員会の設置と継続的な活動	
4. 今富いきいきまちづくり委員会名簿	20

《はじめに》

今富地区長期ビジョン振興計画策定にあたって

小浜市では平成13年度より3ヶ年継続事業として、「新世紀いきいきまち・むらづくり支援事業」を小浜市全12地区において実施することを提唱し、初年度より3ヶ年間で、地区民の手づくりの地域計画を立案することになりました。

また、平成14年4月には全国ではじめて『食のまちづくり条例』を制定し、その条例に基づいて地域の特性を生かした産業や環境の整備を図り、日々の生活の向上を図ると共に、食のまちづくりと教育・伝統文化の保存を図りながら地区振興計画を策定することが定められました。

当今富地区でも早速、事業策定に伴う準備委員会(委員8名)を設立いたしました。準備委員会では、長期ビジョン振興計画の検討方法、スケジュールなどの検討を進めると共に、今富の現状を知るために現状調査を進めました。

一方で、本委員会を立ち上げるために地区内の先輩諸氏をはじめ、各種団体の協力を得ると共に今富公民館だより「岳」などで委員を公募し、幅広く各地区、各層から委員を求め35名の長期計画策定委員を選出し依頼をいたしました。

当地区では、舞鶴、若狭自動車道の通過予定や若狭西街道、国道27号拡幅、国道162号計画、小浜上中縦貫道付近の開発計画など有史以来の大事業計画が予定される中で、地区内のご意見を聞きそれを反映すべく全世帯にアンケート調査を実施するなどして今富地区長期ビジョン振興計画を策定いたしました。

委員会は4部会で構成をして、あらゆる角度からのハード、ソフト両面について種々検討を重ねていただき、現在の今富地区のおかれている現状を分析して、第1から第6までの構成で長期のビジョン事業計画を策定しました。

当地区は小浜市全体から眺めましてもこれから益々発展していく地区でもあります。

地区民1人ひとりが健康で明るく災害のない住みよいまちづくりを目指したいと考えております。いろいろご意見もあろうかと存じますが、一読いただき今後のご参考にしていただきますれば幸甚に存じます。

最後にこの資料策定にあたりご協力いただきました多くの方々に厚くお礼を申し上げます。

平成16年3月

今富いきいきまつづくり委員会

委員長 一 圓 敏 彦

21世紀を創造するまちづくり in 今富

1. 計画の指針

21世紀を迎えて、今富地域の住民が健やかに安心して暮らせるまちづくりを目指す。

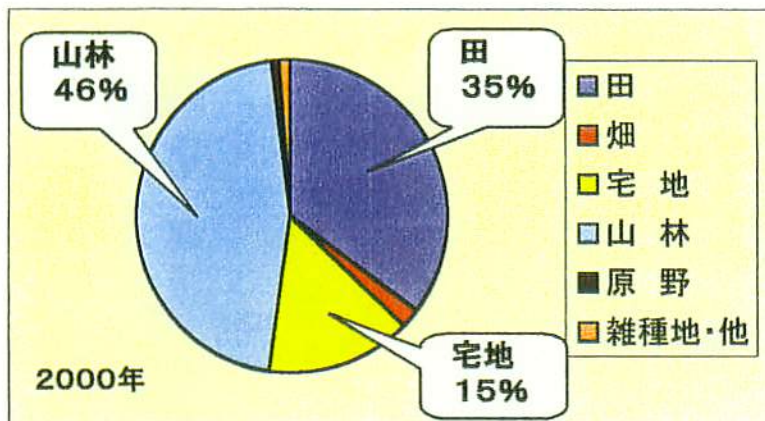
特に、若者に活力を与え、これから益々増加が予想される高齢者が、生きがいを感じるまちづくりを目指す。

2. 現状分析

(1) 今富地区では、ほとんどが農地と住宅地、そして山林で占められ工業地は、非常に少ない。

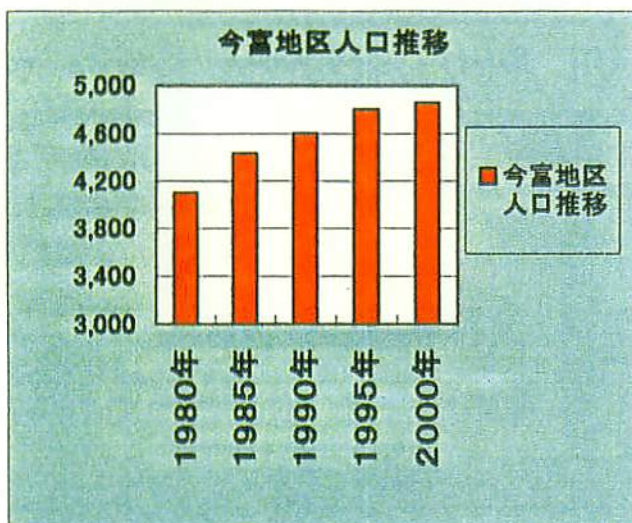
近年は、小浜郊外の住宅地として、住宅が大幅に増加してきている。(当地区では、1980年からの20年間で所帯数が41%増加した)

今富地区の地目別割合(道路、河川を除く)



*小浜市全体では、山林 56%、田 12%、宅地 5%である。今富地区は、小浜市全体と比較すると、田と宅地の割合が高い。この事は、農業の割合と住宅の割合が多い事を示す。

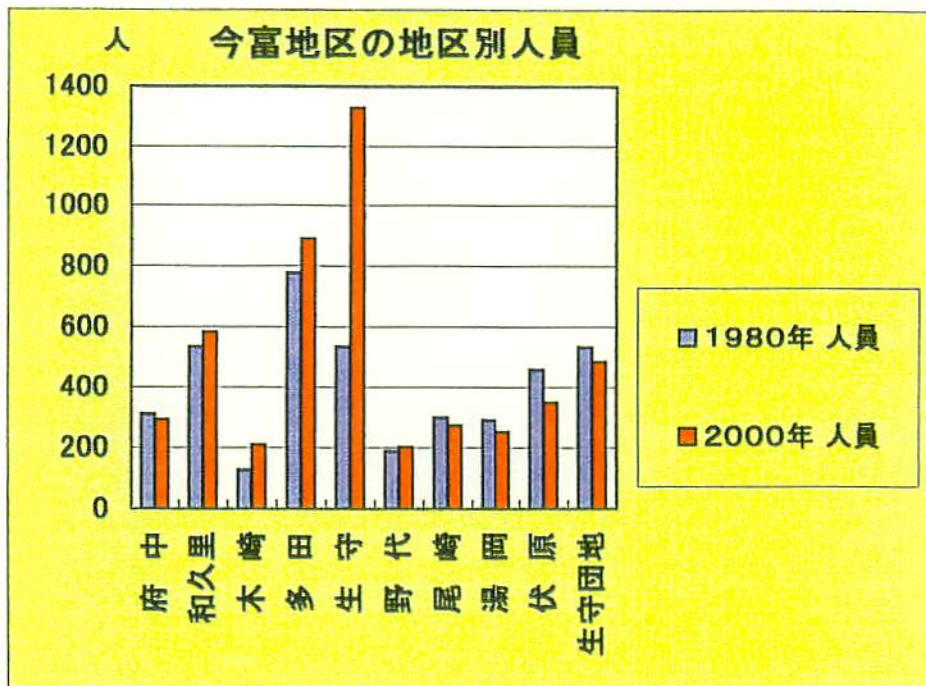
(2) 小浜市の人口は、漸次減少しているが、今富地区の人口は増加している。



*小浜市の人口は、この20年間に2.2%減少しているが、今富地区は、この20年間で18.5%増加している。



今富地区で この20年間に著しく人口が増加しているのは、生守区、多田区、木崎区であり、特に生守区は、この20年間に 97%増加している。逆に尾崎区、湯岡区、伏原区、府中区、生守団地区は、減少している。



(3) 広域交通網は、東西軸のJR小浜線と国道27号線しかなく、時間的距離があり、人的、経済的交流を阻害している。

ただし、2003年に完成した舞鶴若狭自動車道小浜西インター小浜線の電化、西街道の一部開通等により漸次改善が進んでいる。

現行 鉄道	小浜～大阪間	2時間30分
	小浜～京都間	2時間
	小浜～福井間	1時間50分
	小浜～敦賀間	1時間
	自動車	小浜～敦賀間
	小浜～舞鶴間(高速道使用)	40分



(4) 今富地区内には、南川、多田川、北川の河川があり、水害を被る危険性が大である。

特に、南川については堤防に弱い所があり大変危険である。また、森川水系は、川幅が狭く多田川への水はけが悪い為ちょっとした降水量で浸水する。

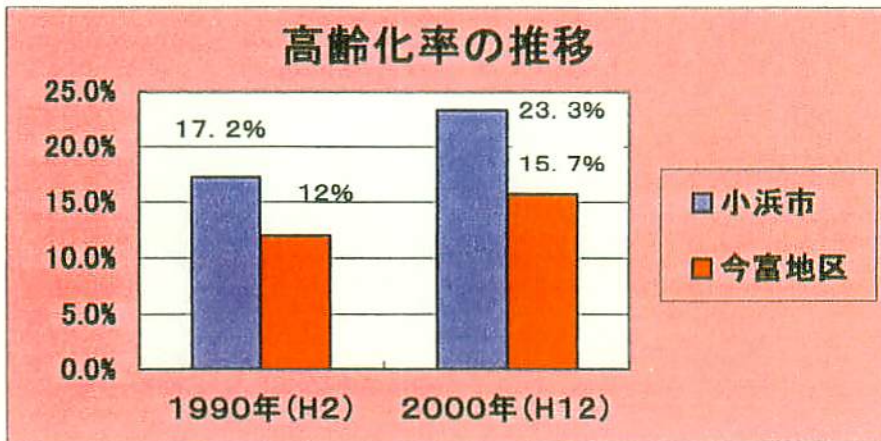
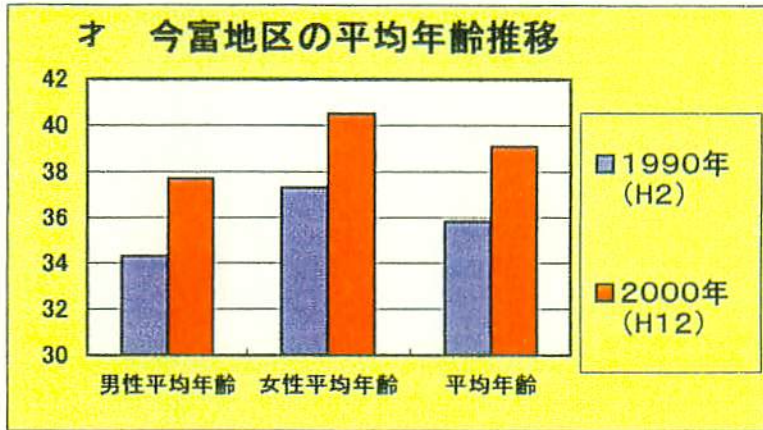
(5) 今富地区の避難場所は、今富公民館と今富小学校が指定されているが、避難人員は 1,568名であり、人口的に大幅不足となっている。また、水害の場合は、逆に危険であり、真の避難場所がない。

(今富地区の人口は、2004年1月で 5,178人である)

(6) 今富地区の平均年齢は、1990年からの10年間で 3.3才高くなっている。また、高齢者(65才以上)の数は、この10年間で207名増加し、高齢化率は 12%から 15.7%に大幅アップしている。

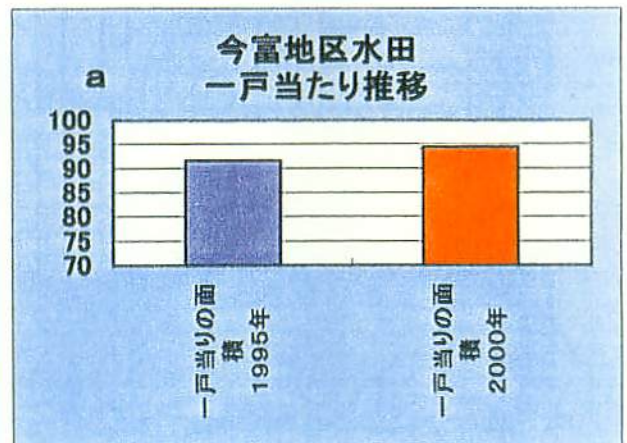
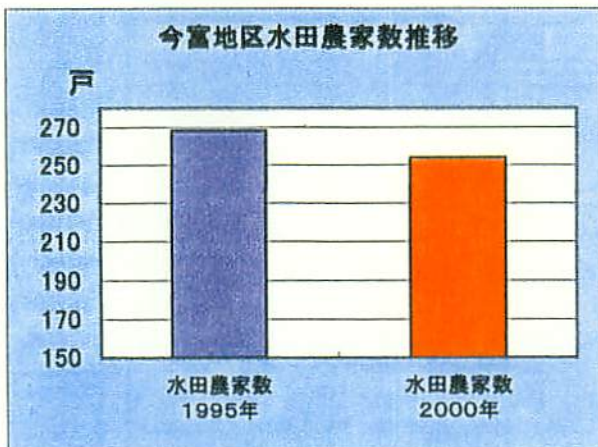
しかし、今富地区の高齢化率は、小浜市全体の高齢化率に比べて大幅に低い。

全国の高齢化率は、2001年で17.9%である。



*小浜市の高齢化率は、
1990年 17.2%
2000年 23.3%

(7) 今富地区の水田農家数は、この5年間で 5.3%減少し、一戸当りの面積は、平均で 2.7%増加している。また、新しく出来た西街道、および、これから建設される舞鶴若狭自動車道により、当地区内の農地が分断される。その他、木崎区にあっては、住宅地も分断される。



- (8) 阪神大震災後の国道27号線の大型車増加、西街道の一部供用、小浜縦貫線の整備完了などにより、交通災害の危険性が増して来ている。



- (9) 旧地区の住宅地は、道路が狭く未整備の所が多くあり、火災発生時、および、急患時の救急車の通行に支障をきたしている。また、新興住宅地では、道路の未整備の所があり、先を見越した整備が出来ていない。

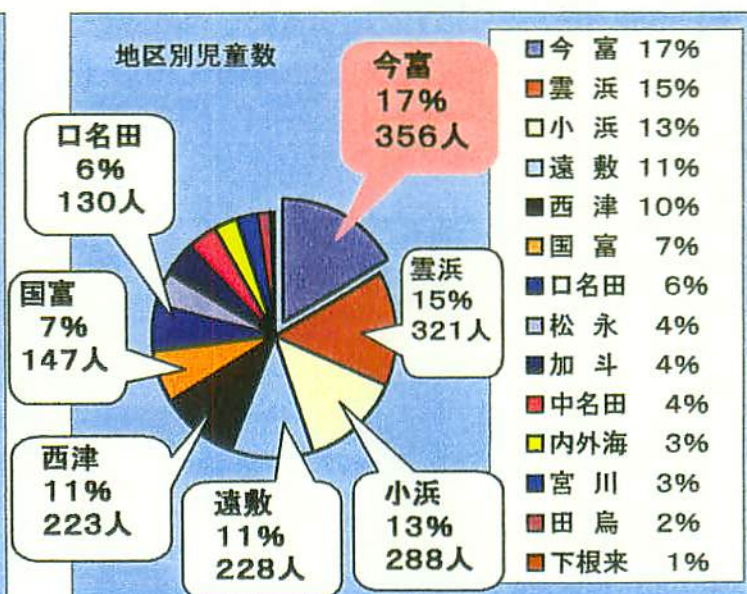
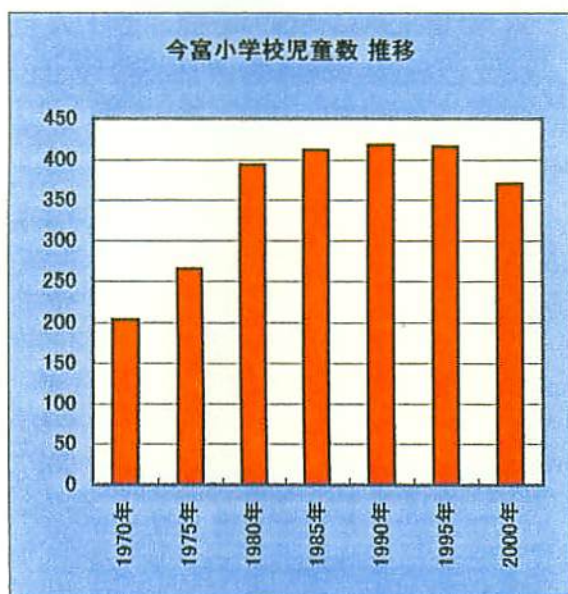
- (10) 下水道が未整備のため、生活排水と農業排水が混ざって流れている。

- (11) 今富地区には、和久里の壬生狂言、妙楽寺本堂など、国指定 8件、県指定 9件、市指定 13件、その他 6件、合計 36件の文化財があるが、有効に活用されていない。

- (12) 今富小学校の児童数は、1990年をピークにして減少して来ており、2000年では、ピーク時より 11%減少している。しかし、1970年を基準にすると、1990年は、205%、2000年は、181%となっている。

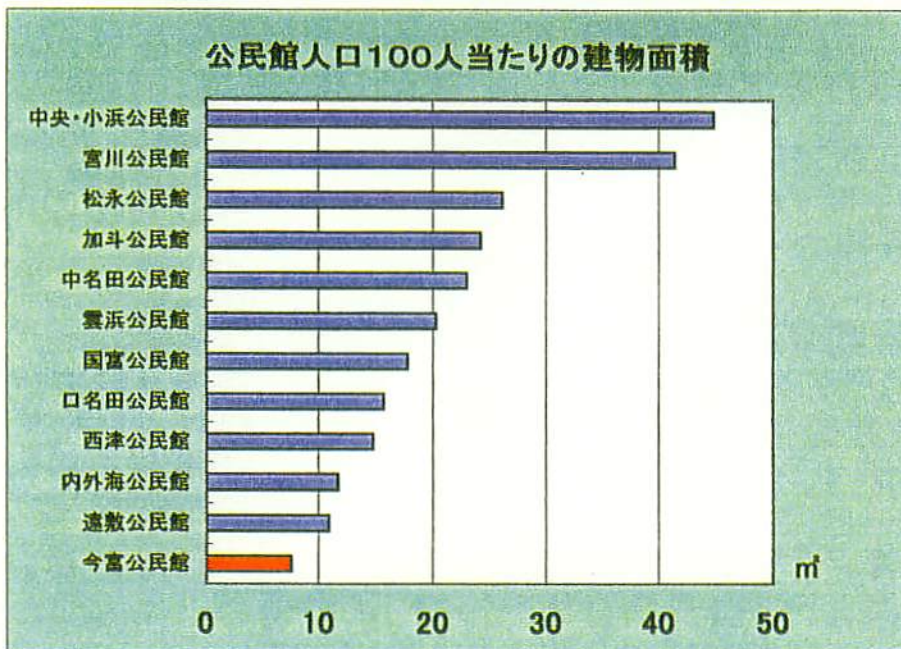
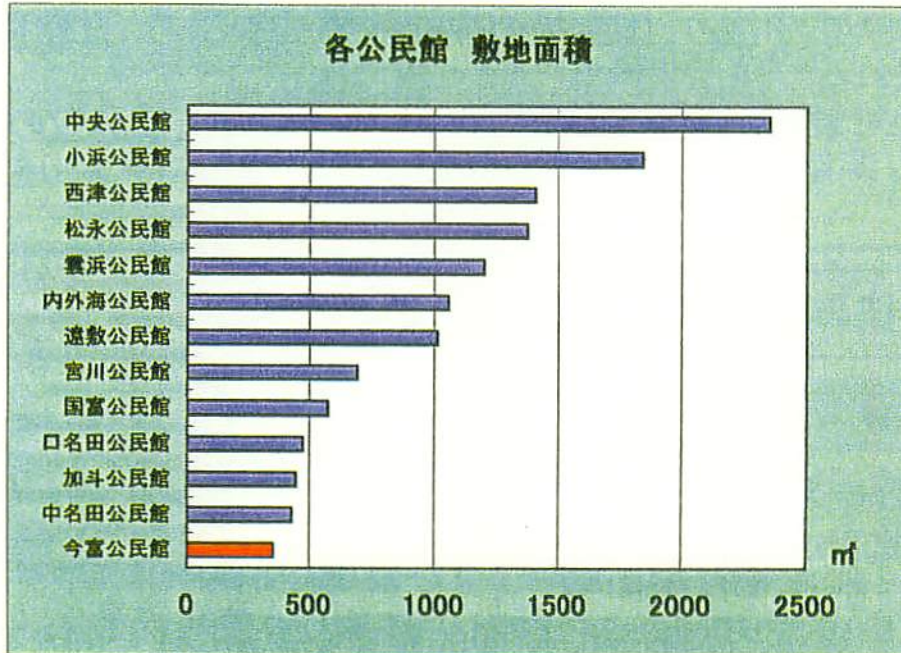
一方、小浜市では、1970年がピークで、2000年では、35%減少している。

小浜市内の小学校では、今富が最も多い。



(13) 今富公民館は、小浜市の中で敷地面積が一番小さく、かつ人口 100人当たりの建物面積が最も小さく、他の公民館とかけ離れている。

一方、今富区民一人当りの公民館年間活用回数は、2.7回と低いですが、延べの年間活用人員は、13,313人と多い。その事は、人口 100人当たりの建物面積が少ない為に、活用するにも活用出来ない状況にある。



(14) 小浜市クリーン・センターのダイオキシン、および、近郊にある原子力発電所による放射線漏れなどの公害が懸念される。



3. 長期ビジョン事業計画

(1) 長期ビジョンの主要な狙い

- ★ 広域交通網を整備して、京阪神、滋賀県、福井市等との時間的距離を縮めて、交流圏を拡大し豊かな生活が営まれることを目指す。
- ★ 海あり、山あり、川あり、国宝級の神社仏閣が多くあり、自然豊かな生活が営まれることを目指す。
- ★ 交通安全対策、環境保全対策、犯罪防止対策、福祉基盤の充実等を進めて、高齢者や、子供達が安心して暮らせるまちづくりを目指す。

(2) 快適で住みよい社会基盤の形成をめざして

[イ] 生活基盤の充実

● 広域交通網の整備

◆ 広域自動車道の整備

1. 舞鶴若狭自動車道の早期完成

北陸自動車道と接続させ、時間的距離を短縮し総合的な発展を目指すため早期に完成。

小浜～敦賀間 40分

2. 西街道の早期完成

災害発生時の対応、および夏季の道路混雑緩和対応のため、国道27号線のバイパス道路として早期に完成。

◆ 舞鶴若狭自動車道の小浜 IC、複合休憩所の建設

複合休憩所の建設(小浜～上中線、小浜ICアクセス付近に建設要望、延敷地面積 22,940㎡、
延建屋面積 1,955㎡+3,780㎡ 今富の機能集中化推進)

1. 特徴ある複合型道の駅を建設し、コミュニティセンター、防災避難センター、保育園、農業総合体験施設、消防署の出先機関などを兼ねた物とし、今富発展の足掛かりにして行く。

(保育園は、「健康で生きがいに満ちた福祉社会の実現をめざして」・「保育園の統合と複合施設化」の項参照)

(コミュニティセンターは、「あすを担う人材育成をめざして」・「活動拠点の充実」の項参照)

(農業総合体験施設は、「活力ある産業の育成と観光・リゾートの振興をめざして」・「体験型農業施設」の項参照)



2. 道の駅の内容

- (1) 模様し物会場を有し、小浜市を始め今富地区の文化、歴史、名所等のPRと案内掲示、古墳出土品の展示等して紹介する。
- (2) ゆったりとした休憩所を設置して、今富特産品の展示即売。
(無農薬栽培を強調した朝市等)
- (3) 御食国食堂店、お土産店、コンビニ店も設置して、観光客だけでなく地元民にも大いに利用して貰えるようにする。
- (4) 若狭、今富地域を紹介するシアター館の設置(若狭地方と今富地域の四季の移り変わりを紹介する20分位のもの)
- (5) 道の駅周辺には、季節感のある花木(桜、ハス、コスモス、紅葉など)を植える。

[利点]

舞鶴若狭自動車道小浜IC玄関口周辺の土地利用が推進できる。



◆ 広域鉄道の整備

時間的距離を短縮するため、びわこ若狭湾快速鉄道(上中～今津間)を早期に完成。

小浜～京都間 55分となり生活圏となる

◆ 今富縦貫道の建設(162号線バイパス)

1. 尾須縄鼻から国道27号線にアクセス、さらに小浜～上中線にぬけ小浜ICにアクセスするコースとする。
2. 今富縦貫道のルートは、尾須縄鼻から山中に入り尾崎集落の裏を通り、尾崎と野代の間部より 舞鶴若狭自動車道方向に走り、平田線と合流、国道27号線に向けて走り、国道27号線インター接続道路の向かい側にアクセスする。

[利点]

小浜～上中線にすぐ出られ、小浜市街地、保育所、JAライスカントリーにも便利な路線となる。

◆ 若狭ヘリポートの活用

福井県、および小浜市と連携を密にして、新たな運用方法の検討を進める。

● 道路交通網の整備

◆ 生活道路の整備

旧集落内などは、災害発生時、火災発生時の消防自動車の通行、急患時の救急車の通行を妨げるような道路が多くある。

これらの解消をするための道路整備。



◆ 道路の整備と交通停滞の緩和

1. 生野尾線拡張工事、尾崎地係から尾須縄鼻まで法面を活用した拡張工事实施(平成16年実施の計画)
2. 生野尾線の、国道27線アクセス部分が大変停滞する。西街道が全線完成すると更にひどくなる。これを緩和するためトマトオニオンの角一車線拡幅し、右折れレーンを作り流れを緩和する。
3. 生野尾線の、小学校入り口付近の歩道拡張工事实施(朝は、高校生、中学生、小学生、一般通勤者で大変混雑し、車道を歩かざるをえなく大変危険)
4. 国道162号線と国道27号線のアクセス部分の停滞緩和のため、今富縦貫道の建設(前項目参照)
5. 生野尾線の道路水はけ改善(道路の状態が悪く水溜りが多いため、通学生に車の跳ねた水が掛かる)

◆ 交通体系の確立

1. コミュニティバス路線を見直して、市民の利便性の向上を図る。特に、高齢者を基準にした見直しとする。
2. 生野尾線にコミュニティバスを走らせて、地区民の有効活用と、市街地への直結化による利便性拡大。(身体障害者、高齢者が市街地の施設を利用しやすい様にする)
3. 雨、風防除用バス停留所設置、および高齢者のバス乗降安全柵の設置。

● 上水道



◆ 上水道の塩害

1. 湯岡上水道は、水不足による渇水時などに塩害が推定されるので、専門家による調査を依頼。

● 下水道

◆ 早期下水道の完備

1. 下水道の完備は、行政計画に従うが遅延なき様に行政に強く要望する。
2. 生守、新和久里地区の生活用水路の暫定改良(下水道の整備が完了するまで)



● 河川の整備

◆ 南川水系の改修

1. 南川の尾須縄鼻から下流右岸を鋼矢板打ち込み等による補強対策の実施(特にS28災害決壊部分の野代バス停付近の早期完成)
2. 今富平野の灌漑用水、防火用水確保のため、谷田部不動寺頭首工の復旧工事早期完成。

◆ 多田川、森川水系の改修

1. 多田川改修工事の早期完成(特にJR鉄橋付近の早期完成)
2. 森川水系の改修
3. 改修工事は、環境改善を進める為に、自然を取り戻す工法を導入して進める。

● 宅地・住宅



◆ 都市計画・土地区画整理

1. 縦貫線沿い、および、多田区、生守区、木崎区など今後も発展が予想される地域では、秩序ある宅地開発が必要であり、小浜市が中心になり、都市計画などで基準を定め強力に進めてもらう。今富区も協力する。

(「快適な生活基盤の充実を図るために」……「土地利用」の項参照)

◆ 市営住宅の改善

1. 高齢者、障害者などの入居時には、行政と強調して低階を優先する様にする。住民も協力する。
2. 市営住宅の新設、または建て替時には、例えばエレベータの設置など、高齢者、障害者などに配慮した建て物とする。

● 情報通信網

◆ 情報の迅速化

情報の確実性、情報の徹底を迅速に行える様にする為、次の事を進める。

1. 今富地区各区でパソコンホームページを作成して、今富コミュニティセンターとアクセスし情報の一元化を図る。
2. 学校、各種団体も今富コミュニティセンターにアクセスして情報の一元化を図る。
3. 若狭CATVネットワークを活用して、光ファイバーを敷設し電話との回線共用化によるインターネットの利用。

◆ 今富地区シンボルマークの制定

1. 広く今富地区民から公募して制定する。

[口] 快適な生活基盤の充実を図るために

● 土地利用



◆ 小浜 IC周辺の土地利用

1. 今富縦貫線(国道162線バイパス)とIC周辺を合わせて小浜市の玄関口と位置づけ、今富地域の活性化を図って行く。

(「広域交通網の整備」の項を参照)

◆ 土地地域の色分け合理的な整備

1. 今富地区国道27号線沿い、IC周辺、今富縦貫道、西街道、および人口増加の多い多田区、生守区、木崎区では、宅地地域、工業地域、商業地域、農業振興地域など秩序ある開発と、区画整理が必要のため、小浜市が都市計画等で基準を定め強力に進めてもらう。今富地区も協力する。



● 公園・緑地

◆ 公園・緑地の適正な配置

1. ボランティアが中心になって、現在生守で進行中の「憩いの森」総合公園に便乗して、周辺を拡大し今富地域住民の憩いの場所として、休憩所、マレットゴルフ場、ゲートボール場などを有する、総合公園の開発を進める。(ボランティアと小浜市役所が一体となり充実した公園を目指す。……目標 西山公園以上)
2. まちづくり支援事業として、各地区毎にミニ公園、ゲートボール場などを立案し、それを設置する。(地区民との一体化創出)
3. 南川河川敷を活用し、工夫して生態系を壊さない親しみのある親水公園の設置

◆ 植樹事業の取り組み

1. ボランティア活動で、森川沿いに桜を植樹して、今富地区の桜名所に仕上げする。(南川堤防は、植樹することが出来ないため)
2. 松かれ山に植樹して、緑豊かな自然を取り戻す。

◆ 安心して水遊びの出来る自然川の復元

1. 不動寺頭首工の水を学校ゾーンに引き込み、年中せせらぎ用水として利用し、子供達が安心して水遊び出来る川を作る。
2. 蛍などが生息できる里づくりを目指す。

[ハ] 安全性確保し環境の保全を図るために

● 交通安全



◆ 交通規制の徹底と交通安全教育の実施

1. 年1回の交通安全講習会の実施と、高齢者特別交通安全教育の実施(高齢者歩行ルール等の教育と徹底)
2. 交通規制の徹底と指導強化(生野尾線より今富小学校入り口付近等に交通規制が取られているが、守られていないし、指導もされていない。交通指導員、警察官、防犯隊などの協力をえて実施)

◆ 交通安全施設の整備

1. 犯罪や交通事故予防のために、現状調査を進め不具合場所には防犯灯や信号機の増設を進める。

◆ 交通安全環境対策

1. 歩道橋の拡幅、歩道の拡幅、および、整備改良。



● 環境保全・環境衛生・リサイクル

◆ 環境保全と環境衛生(リサイクル比率の向上)

1. 「混ぜればゴミ、分ければ資源」の考えで区民全員が、徹底したゴミの分別を進める。
2. 区民全員が、廃品回収の活用による古新聞、雑誌などの処理、生ゴミ堆肥化などの工夫をして、各家庭から出るゴミを極力減らす。
3. PFI手法の採用、スクープ方式などにより堆肥化を進め、ダイオキシンを発生させない、循環形の積極的な取り組みの推進を要求。
4. 生野尾線沿いの農業排水路は、生活排水路と共用されているが、農閑期は水が流れていない為、不衛生で悪臭がする。下水道が完備出来るまでは、南川の農業用灌漑用水を取り入れ環境美化に努める。(南川の水門を開け年中水を流す)
5. 「道路、河川を美しくする運動」の展開(月に1回親子で実施)
6. 住宅地区の高層化禁止。

● 防災

◆ コミュニティセンターの設置

1. 道の駅に併設して防災避難センター、保育園、農業総合体験施設、消防署の出先機関を兼ねたコミュニティセンターを小浜～上中線IC付近に建設し、今富地区の機能集中化を推進する。(避難ルートは、今富縦貫線を利用すれば、尾須縄鼻からでも10分で避難できる。)

(「広域交通網の整備」の項を参照)

◆ 防災訓練の実施

1. 防災について地区民が常に危機意識を持つ様にするため、避難訓練を実施する。
2. 避難方法は、各集落によって異なる為、集落別の避難計画を作成し、避難訓練は、集落単位で実施する。

(各集落単位で避難マニュアルを作成する)

◆ 防災監視体制の強化

1. 原発、水害、地震災害用監視機器の最新化と増設。

◆ 生野尾線沿いの防火用水の確保

1. 生守を中心に住宅が増加して来ている地域の防火用水を確保する為、農業排水路に年中水を流すようにする。

(「環境保全・環境衛生。リサイクル」の項を参照)

(「河川の整備」の項参照)

● 防犯

◆ 防犯体制の確立

1. ガレージ商法とか悪徳業者を排除するため、住民意識の向上を図る。また、異常時の連絡方法を明確する。



2. 各集落毎に、防犯上の危険箇所、交通事故多発箇所を明確にして区民に告知すると共に、対策を検討し実施する。
3. 熟練機動隊などを結成して、若年層に恥じらいを教える教育の場を設ける。また、大人が他人の子供に対しても、自分の子供と同じ様に勇気を持って注意指導する。
4. 大人は、進んで秩序を守り、子供に恥じないお手本になる行動をし、飲酒運転なども絶対にしない。

(3) 健康で生きがいに満ちた福祉社会の実現を目指して

[イ] 健康づくりの推進のために



● 保険・医療基盤の整備

◆ コミュニティバスの有効利用により、市街地の各種施設を利用

1. コミュニティバスの生野尾線廻りなどの実現、および停留所などを整備して利便性の拡大を図る。

(「道路交通網の整備」……「交通体系の確立」の項を参照)

● 福祉基盤の充実

◆ 新設のコミュニティセンターを利用し、地域福祉活動の活性化を図る

1. 人口増加に対応したコミュニティセンターを建設する。
(「あすを担う人材育成をめざして」……「活動拠点の充実」の項を参照)
2. 地域福祉活動支援事業としてコミュニティセンター内に、常駐の相談員を置く。障害者、高齢者、一人暮らしの人を対象にした、介護相談、健康相談、社会保険、公的扶助相談、その他の相談に応じる。
3. 地域通貨「マリン」を活用した支援事業の展開
 - (1) 小浜市の「おばま地域通貨研究会」の制度を利用して「チョボラ」(ちょっとしたボランティア)活動を進める。
 - (2) 今富地区で会員を募集して、小浜市のボランティア支援センターに登録する。
 - (3) 活動は、健康、環境、医療、交流、緑化、趣味、子供、技術指導などに区分して、「チョボラ」活動を、主に今富地区内で進める。
 - (4) 今富地区の福祉活動をスムーズに進める為、前記常駐の相談員が補佐する。
4. くつろげる憩いの場所整備
 - (1) 生守で進行中の「憩いの森」総合公園内にマレットゴルフ場、ゲートボール場などを併設して高齢者がくつろげる場所を確保する。

(「快適な生活基盤の充実を図るために」……

「公園・緑地の適正な配置」の項を参照)

- (2) 新設コミュニティセンター内の多目的ホールに、ソフトバレーコートなどを設ける。

(「あすを担う人材育成をめざして」……「活動拠点の充実」の項を参照)



[ロ] 社会福祉の推進のために

● 児童福祉、社会保険、公的扶助の充実

◆ 保育園の統合と複合化

1. 保育園は、世代間交流を容易にするためコミュニティセンターとの複合化を図る。
2. 少子化時代に対応して今富第一、第二保育園を整理統合して、合理化を進めると共に、建物の不備、環境(日当りなど)の改善など内容の充実を図る。

(「あすを担う人材育成をめざして」……「活動拠点の充実」の項を参照)

◆ 保育園の情操教育

1. 子供達と高齢者のふれあい
昔の遊び、手作り工作などの交流会を実施。
2. 小動物育舎の設置(にわとり、うさぎ、など)
3. 紙芝居などを用いて命の尊さを教育
4. 挨拶(声かけ)運動の展開
5. 教育の有り方などの講習会実施……現在の子供達に対する教育のあり方講演会など。
6. 子育て支援センター等を活用して、身近で活用しやすいものにする。



[ハ] 安心して暮らせるまちづくり

● 安心まちづくり

◆ 生きがいづくり

1. 公民館行事に積極的に参加
(1) 各種スポーツ教室を通じて実施。
(2) アイデアを募り手作り工作などの実施。
2. 子供達と高齢者のふれあい事業推進
3. 交通安全活動の取り組み
(1) 交通安全教育の実施。
実務的指導を受け安全知識を身につける。
(2) 交通危険箇所の定期点検と改善。



◆ 地域内連帯感の強化

1. 隣組同士のあいさつ運動展開
2. 一人ひとりの質的マナーの向上
3. 盆踊りなどの復活

◆ 冠婚葬祭の簡素化

1. 地域的見解の相違を熟慮の上、生活改善運動を展開

